

# テレビは、視聴「率」から、視聴「数」と視聴「質」へ

## テレビ局のネイティブアド事業

これは例え話だが、もし、テレビ東京が「ガイアの夜明け」をブランドットコンテンツと定め、アジアのスタートアップの企業達にフォーカスした紹介番組にシフトさせて、中国Youkuと放映パートナーシップを結んだとしたら……。もし、そのテレビ東京の営業収入が、スポンサード・コンテンツとしての取材したスタートアップ企業からの収入と、Youkuが得る広告収入を配分してもらおうモデルだとすれば……。理解のための例えだが、米国では一足先に、こんな感じでネイティブアドがテレビ（リビングにあるネット接続された画面）に登場している。



世界三十カ国以上に展開し、若者の強い指示を持つメディア「VICE」（以下、バイス）がテレビのネイティブアドのモデルとして注目されている。日本でも「バイス JAPAN」を開設した。もとはカナダ・モントリオールの地元

「パンク」雑誌としてスタートしたバイスだが、ミレニウム層をがっちり掴み、数年でテレビ（ビデオ）業態にまで変遷させてしまった。さらにバイスは放映コンテンツを北米に限らずグローバルに展開させる（営業する）と事業拡大している。このバイスの新ビジネスモデルが、テレビ・ビデオ界隈のビジネスにおける月間講読のネットフリックスのモデルの対抗馬だ。

## 旧テレビ業界のチャンネルを新興ネット企業が引き受ける

米大手ケーブルチャンネルのA&E（デイズニートと米ハースト社の合弁）は、自社が持つ「H2チャンネル」に自力でミレニウム世代を引きつけることができず、お手上げだった。十八〜四十九歳の層ではついに昨年比二〇％の落ち込み状態。二〇一五年十月、A&Eの持つ「H2チャンネル」をバイスがコンテンツをテコ入れ提供し、二〇一六年二月から新たに「バイスランド・チャンネル」として再出発させる発表をした。A&Eの判断が良かったのは「自社番組編成」のテコ入れを見切り、ミレニウム世代の吸引力があるバイスに二〇一四年から資本をいれていた事だ。冒頭「ガイア

の夜明け」例のごとく、A&Eとバイスの動きはテレビ（局）のネイティブアド事業への進出を意味する。

## テレビ局は送り手か作り手か

日本のテレビ局の事業モデルがどうシフトするのか、という目線で考えてもらえれば分かりやすい。アメリカには「ケーブルテレビ配信社」(コムキャスト、タイムワナーケーブル、ディッシュテレビ等。いわばコンテンツの送り手＝配信パイプ)と、「ケーブル番組制作チャンネル」(ESPNやMTV、A&E等。いわば番組を制作するプロダクション＝作り手)とが存在する。日本ではこれらの米国テレビの状況をひっくり返して「ケーブルテレビ」「テレビ局」と略して呼んでしまっているのでややこしい。日本のテレビ局は上記の「配信＝パイプ」と「制作＝プロダクション」の両面を兼ね備えて「局」と呼ばれている事業であるのを再確認しておく。

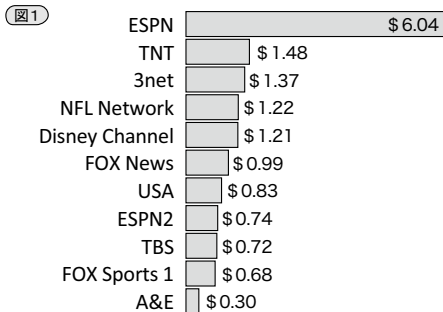
## 制作チャンネル化するテレビ局

結論を言えば、日本のテレビ局は、良し悪しは別にして「番組制作チャンネル」という制作者側の色がだんだん濃くなる可能性がある。少なくとも

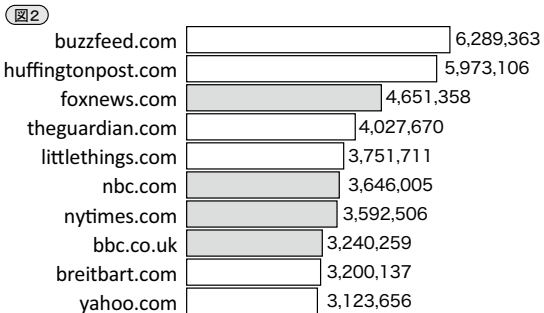
## 視聴「数」と視聴「質」で、国外での競争

もネットフリックスへ番組制作で手を組んだフジテレビの動きはこの方向だ。今まで政府からの電波利権で儲けていた「送り手」側ビジネスを今後どう扱うのかが見ものだ。

A&Eチャンネルがソーシャル上でのコンテンツ競争に進出した、ということとは競争する相手は他局他チャンネルではなく、比べる指標も「視聴率」では測りきれない。モバイル端末を含めたソーシャルの向こう側にある全てのモニターへの「総インプレッション」(視聴数)や、シェア、コメントを含めた「エンゲージメント」(視聴質)に勝負指標が移ってくる。そして競う相手は同国内だけではなく、ハフィントンポストやバズフィードと同じく世界を相手にしたコンテンツホルダーとなってくる。図2はソーシャル上でのエンゲージメント数ランキングだ。ハフィントンポストやバズフィードに劣らずFOXやNBCを始めとする旧テレビ局のコンテンツが上位に並んでいるのがわかる。AKB48やアニメに頼らず、グローバルにコンテンツを供給するビジネスが日本で登場するだろうか。現テレビ局の事業シフトに期待したい。



ケーブルテレビ配信社(コムキャスト、タイムワナーケーブル、ディレクTV等)が、ネットワーク・チャンネル(ESPN、TNT等)に支払う、購読者1件あたりに占めるコスト。業界平均は約41セント、中央値は14セント、ESPNがダントツで6ドル。出典:WSJ.com



フェイスブック上でのシェアランキング。今年10月、月間 出典:Spike.newship.com

(デジタルインテリジェンスニューヨーク)

薬枝洋文